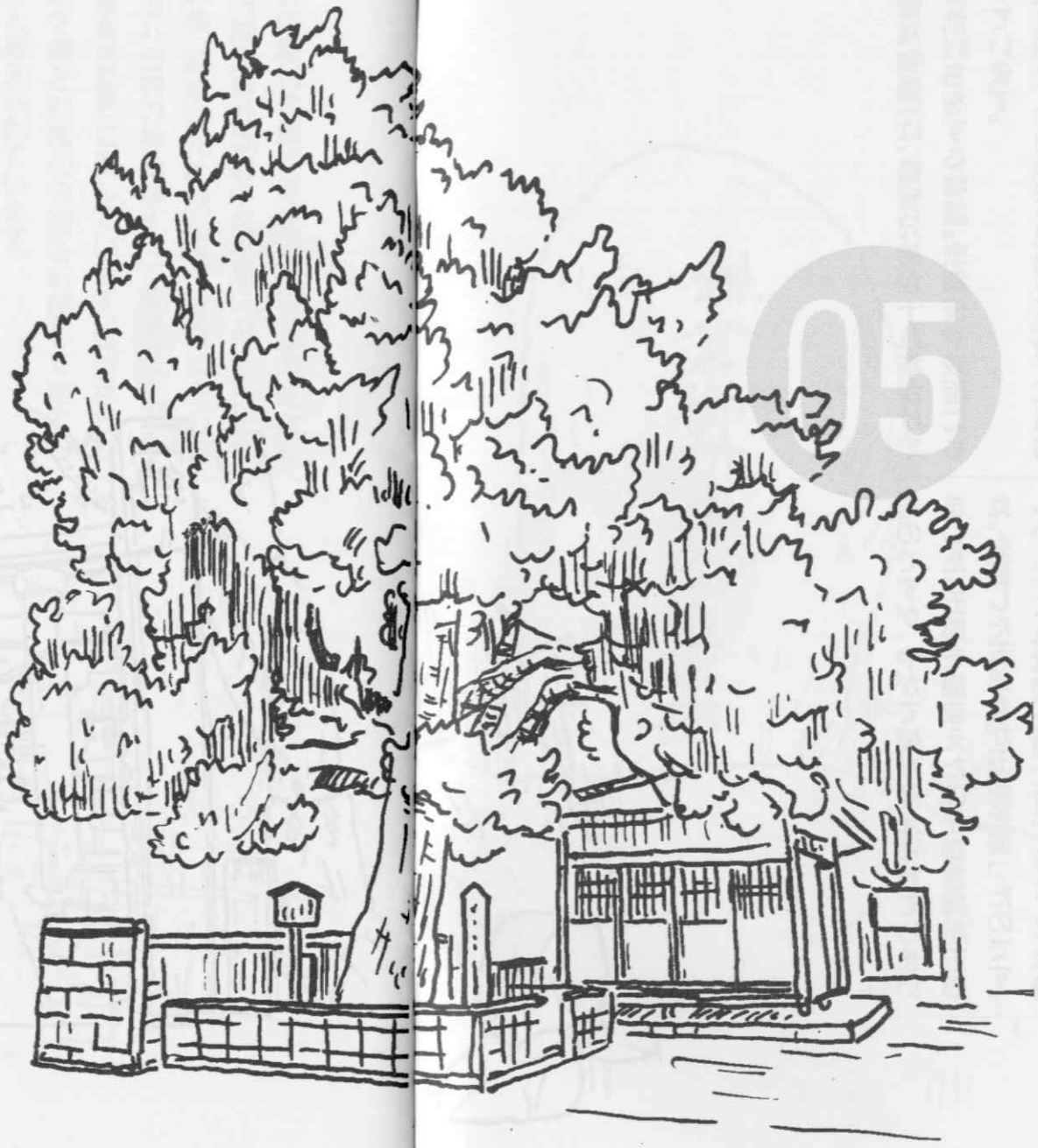
御所五郎丸が杖をついたら、ビャクシン（ヒノキ科）が根付いたという伝説が残っている。



野牛島に流罪となった鎌倉御所五郎丸は、長い木の杖を持っていたといわれています。彼が地面にその杖を刺すと、根付きの大きなビャクシンになったという伝承もあります。この大木は、五郎丸の墓前の観音堂庭先にあります。観音堂には、五郎丸の肌守りの神と伝えられる観音菩薩（実際は地蔵菩薩）が安置されています。

「桃岳院記」によると、日本全国六十六カ所の霊場を回る僧が観音を盗んだのですが、竜王まで行かないうちに目が見えなくなって、けっきょく捨ててしまった、ということです。この地の観音信仰は強く、昭和になってもビャクシンの枝払いをした後、桃園村長がその枝で観音を刻み、入仏式までしたことが村誌に記載されています。